


算数科調査資料 作成の観点

書名		発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○日常の事象を数理的に処理する技能が身に付くように、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><数学的活動を充実させるための工夫></p> <p>○数量や図形を見だし、進んで関わる活動ができるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○日常の事象か見いだした問題を解決する活動ができるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○数学の学習場面から見いだした問題を解決する活動ができるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○数学的に表現し伝え合う活動ができるように、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○挿絵・写真・図表等などの扱いに、どのような特色が見られるか。</p> <p>○統計資料など学習効果を高めるために、どのような特色が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○見やすいレイアウトや読みやすい表現にするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○記号、用語、単位などの表現には、どのような特色が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1>新しい算数</h1>	2 東 書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を、キャラクターの吹き出しや補助発問によって問題解決ができるように工夫されている。基礎的・基本的な概念や性質、技能を身に付け、それらの意味や原理なども理解できるよう配慮されている。単元末には「たしかめよう」が設けられ、理解や技能の定着を図る問題が設定されている。また、課題を創出する単元の導入や学習後に学びを日常の世界で生かす学習のしあげが設定されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決において、テープ図、数直線図等の図を用いることができるように、系統的に構成している。図や式で表してある解決の仕方を説明したり話し合ったりするなど、数学的活動の充実を重視している。また、単元末には、大切な数学的な見方・考え方に焦点を当てて振り返り、価値付けることができるように工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「学びのとびら」では、算数の学び方が明示され、学習内容を生活や学習に活用する態度が育つように工夫されている。また、学習の途中や単元末の「いかしてみよう」「つないでいこう算数の目」「考える力をのぼそう」「算数で読みとこう」、巻末の「おもしろもんだいにチャレンジ」等では、日常の事象を数理的に捉えることのよさが実感できるように工夫されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遊びの中で、数量や図形に着目した経験や培った感覚、興味・関心を想起させ、対話を通して、算数の学習につなげていく数学的活動を積極的に取り組めるように工夫されている。 ○単元の導入では、身の回りの事象について対話を通して学習内容と日常生活の関連を強調し、単元末の「いかしてみよう」では、学習したことを日常生活に生かし問題を解決できるように工夫されている。 ○問題解決の過程で特に働かせたい数学的な見方・考え方に「\textcircled{P}」を付して示唆することで、学習のより重要な見方・考え方を発見しやすくしている。 ○巻頭の「学びのとびら」において「友だちと学ぼう」という対話的な学習方法を明記している。単元末においても、対話を通して学習の振り返りをする構成になっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料は身近な内容に加え、社会や自然の事象が絵と写真で取り上げられている。 ○全学年に、数学的活動に使う資料のページが設けられており、切り取り用教具にはミシン目が入っている。 ○図や表は色付けされ、書き込めるようになっている。 ○巻頭に、問題解決的な学習の取り組み方やノートの書き方の例が示され、巻末に、学習に必要な既習の内容がまとめられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。 ○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色付けで強調されている。 ○各時間の問題は番号が付けられ、囲みで強調されている。 ○各時間の課題・めあては下線で強調され、まとめは囲みで強調されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で記されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○数学的に考える資質・能力を身に付け活躍できる人を育てるという方針の下、算数の「内容」を学ぶ過程で、「数学的な見方・考え方」を育む構成になっており、この見方・考え方の可視化を意識した紙面になっている。 ○幼小の接続を意識したA4判中綴じの紙面や、小中の接続を意識した振り返りが設けられており、数学的な見方・考え方を発展させる力の育成が意識されている。 	

書名 項目	<h1>たのしい算数</h1>	4 大日本
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「〇年までのまとめ」が新設され、知識・技能を振り返ることができるように工夫されている。日常生活に関連した題材や、学習したことを生活の中で活用する問題が採用されている。児童の興味・関心を喚起させる必要感をもたせた課題を設定し、数学的活動を通して考える楽しさやできた喜びを感じることができるよう配慮されている。適用問題やそれに対応した巻末補充問題「プラスワン」で問題量が確保されている。学習したことを生活にも生かすよう促す「おうちで算数」が新設されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多くの単元に「じっくり深く学び合おう！」を設定し、解決方法が言葉で説明されたり、図や式等と結び付けて考えたりする活動が取り入れられている。また、本時のまとめには、考え方に焦点を当てた「発見！考え方」が掲載されるとともに、いろいろな場面で使える数学的な見方・考え方をひらめきアイテムとして示されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「算数まなびナビ」では、算数の学習の進め方が明示され、学習を発展的に広げ、生活や他教科に生かす態度が育つように工夫されている。また、学習の途中や単元末の「おうちで算数」「ふくろう先生のなるほど算数教室」「算数たまてばこ」「読み取る力をのぼそう」等では、学習した内容を具体的な生活場面で確かめたり発展的な学習に活用したりできるように工夫されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体的な操作や体験活動を充実し、数量や図形に進んで関わり、算数の学習を楽しみながら取り組めるように工夫されている。 ○1～3学年に「おうちで算数」、3～6学年には「ふくろう先生のなるほど算数教室」が設定され、算数で学習したことを日常の生活で生かし、問題に取り組めるように工夫されている。 ○問題を解決するのに、特に振り返ることが効果的などころには、「リンクマーク」が設置されていて、学級全体で振り返るときにも有効活用ができるように工夫されている。 ○「じっくり深く学び合おう」として、単元の中で特によく考えて、話し合いながら学習する場面を設定している。巻頭の「算数まなびナビ」において、算数授業における話し方、聞き方のポイントが記されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料は身近な内容に加え、社会や自然の事象が絵と写真で取り上げられている。 ○全学年に、数学的活動に使う資料のページが設けられており、切り取り用教具にはミシン目が入っている。 ○図や表は色付けされ、書き込めるようになっている。 ○巻頭に、問題解決的な学習の取り組み方やノートの書き方の例が示され、巻末に、算数で使う大切な考え方がまとめられるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。 ○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色付けで強調されている。 ○各時間の問題は番号が付けられ、囲みで強調されている。 ○各時間の課題・めあてはマークで強調され、まとめは囲みで強調されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で記されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の学びを豊かにし、教師にとって使いやすい教科書を意図した紙面構成になっており、学習の「めあて」と「まとめ」の充実が意識されている。 ○考え方に焦点を当てた「発見！考え方」を設定し、知識・技能的なまとめと、考え方に焦点をあてたまとめに分けた構成になっている。これらを活用するため、獲得した見方・考え方をメモするシート「ひらめきアイテム集」が設定されている。 	

書名 項目	<p style="text-align: center;">みんなと学ぶ 小学校 算数</p>	<p style="text-align: center;">1 1 学 図</p>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の扱いを重視し、児童の思考の流れに沿った紙面になっており、身に付けるべき知識・技能が明示されている。学習場面において数理的に処理する「数えたい・まとめたい」が設定されている。単元の冒頭では、日常生活などの場面から問題を発見し、それを算数の課題として取り組むことができる場面として「？を発見」が設けられている。既習事項を基に解決の方法を考えたり、答えの見積りをしたりすることができるよう、吹き出しが活用できる構成になっている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「①考える力」「②判断する力」「③表す力」を、算数を通して育てたい三つの学びの力として、2～6学年の上巻の冒頭にまとめられている。他者の考えを読み取ったり共有したりする活動が取り入れられている。また、特に重要だと考えられる数学的な見方・考え方をモンスターで表し、場面に応じて側注として例示されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「3つの学び方で学習を進めよう」では、算数の学び方が明示され、児童が日常の事象から問題を見だし、協働的に解決することができるように工夫されている。また、学習の途中や単元末の「深めよう」「まなびをいかそう」「なるほど算数」「活動!!」「アクティブ!!」「ふりかえろう つなげよう」等では、学習内容を活用したり発展的な学習に取り組んだりできるように工夫されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題発見からスタートし、「知りたいな、考えたいな、工夫したいな」等、算数の問題として考えていけるような学習の流れにしたり、数学的活動の手立てとなる考え方モンスターの例示をしたりと工夫されている。 ○「みんなの町の算数」を設定し、身の回りの建物や事象などを算数の目で見るといろいろな発見につながることに気付かせ、算数が私たちの日常生活に密接に関係していることに気付くように工夫されている。 ○問題をよりよく解決する手段として図を効果的に活用することができるように、系統的に整理して図の学習ができるように工夫されている。 ○巻頭において主体的な学び、対話的な学び、深い学びの「3つの学び方」という学習の進め方が明記されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料は身近な内容に加え、社会や自然の事象が絵と写真で取り上げられている。 ○全学年に、数学的活動に使う資料のページが設けられており、切り取り用教具にはミシン目が入っている。 ○図や表は色付けされ、書き込めるようになっている。 ○巻頭に、学び方や算数でよく使う考え方が示されおり、横長A B判の側注を利用して、学習の進め方等が示されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。 ○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色付けで強調されている。 ○各時間の問題は番号が付けられ、囲みで強調されている。 ○各時間の課題・めあてはマークで強調され、まとめは囲みで強調されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で記されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○紙面が横長A B判となり、教科書上で作業しやすくなっている。また、教科書の左側に思考の流れ、右側には見方・考え方が示してある紙面の構成になっている。 ○各学年の巻頭では、「3つの学びの力を育てよう」が設定されており、思考力・判断力・表現力等の具体的な力が示されている。6年間を通して身に付けたい見方・考え方が学年ごとに整理されおり、可視化できる紙面になっている。 	

書名 項目	<h1>小学算数</h1>	17 教 出
内 容	<p> ＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○生きて働く知識・技能の習得のために、児童のつまずきへの支援をする「考えるヒント」や「よくあるまちがい」を紙面上に示している。単元導入の「きっかけ」ページでは、身近な場面から問題を発見し、算数の問題としてモデル化し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるように工夫されている。基礎・基本を定着させるため毎時の学習から単元のまとめ、家庭学習への学びのサイクルを意識した構成になっている。知識・技能を学年を越えてつなげる「学びのマップ」や「学びの手引き」が設定されている。 </p> <p> ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○問題・発見の過程を「はてな→なるほど→だったら」の吹き出しで示し、児童の「問い」の連続で学習を進められるように工夫されている。また、働かせた数学的な見方・考え方を振り返ることで、そのよさを児童の心に残していけるように構成されている。そして、多くの単元末には、学んだ算数を活用する活動を取り入れられている。 </p> <p> ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○巻頭の「学びの手引き」では、問題解決の楽しさを味わいながら、児童が算数の学習の進め方・学び方を身に付けられるように工夫されている。また、学習の途中や単元末の「学んだことを使おう」「算数ワールド」「算数を使って考えよう」「広がる算数」「身のまわりの算数」「算数ミニクイズ」等では、学習を広げたり実生活との関わりに触れたりして、知的好奇心を高められるように工夫されている。 </p> <p> ＜数学的活動を充実させるための工夫＞ ○身近な題材から算数の問題を見だし、「はてな」「なるほど」「だったら」と問いの連続を重視した授業の流れで、目的意識をもって数学的活動に取り組めるように工夫されている。 ○「学んだことを使おう」が設定され、身の回りの事象から算数を見付けて、算数の世界と現実の世界とをつなげて、日常の問題を算数を使って解決できるように工夫されている。 ○各領域を貫く数学的な見方に焦点を当てた「算数のミカタ」を巻末に設けたり、「考えるヒント」を掲載したりして、自分で学習に取り組めるように工夫されている。 ○巻頭の「学習の進め方」において「みんなで話し合う」の場面が設定されている。「学びを深める大切な言葉」として、対話を促す観点が明記されている。 </p>	
資 料	<p> ○資料は身近な内容に加え、社会や自然の事象を絵と写真で取り上げている。 ○全学年に、数学的活動に使う資料のページが設けられており、切り取り用教具にはミシン目が入っている。 ○図や表は色付けされ、書き込めるようになっている。 ○巻頭に、学習の進め方や算数で使いたい考え方が示され、巻末に、算数用具の使い方や作図の仕方等がまとめられている。 </p>	
表記・表現	<p> ○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。 ○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色付けで強調されている。 ○各時間の問題は番号が付けられ、囲みで強調されている。 ○各時間の課題・めあて、まとめは囲みで強調されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で記されている。 </p>	
総 括	<p> ○児童の問いを重視し、その問いを学級みんなで協働的に解決し、更に新たな問いに向かう「問いの連続」を意識できる構成になっている。 ○「何ができるようになるか」を実感する単元構成や、「算数のミカタ」では各領域の数学的な見方を顕在化し、「算数で使いたい考え方」では、各学年で生かしたい数学的な考え方が示されている。 </p>	

書名 項目	<h1>わくわく 算数</h1>	6 1 啓林館
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○学年に応じて児童の思考と学習展開に隔たりが生じないように、スモールステップで展開されている。巻末には2段階のレベルの「もっと練習」が設けられ、習熟度別学習など実態に応じて柔軟に補充できるよう設定されている。算数・数学で大切となる類比、帰納、演繹の考え方がそれぞれ「にている」「きまり」「もどる」のロゴを付けて示され、巻末にはそれらが「算数でよく使う考え方」としてまとめ、活用できるように工夫されている。各学期に「復習」が設定され、習熟が必要な計算問題は前の学年に遡って取り上げられている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○思考の助けとなる式、図、表などが例示されるとともに、考え方とその解決に至る過程を説明する活動や判断のよりどころについて話し合う活動などを取り入れられている。また、演算決定に関わる図を系統的に学ぶことができるようにされている。さらに、次時への学びのつながりを、「学びのめばえ」の一つとして示されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○巻頭の「学習の進め方」「わくわく算数学習」では、算数の学び方が明示されており、児童が学習に取り組みやすくなるように工夫されている。また、単元末や巻末の「学びをいかそう」「算数ラボ」「算数の自由研究」「わくわく算数ひろば」「みらいへのつばさ」「やってみよう」「さがしてみよう」等では、日常生活に算数の知識・技能や考え方を活用することができるように工夫されている。</p> <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <p>○生活や学習での経験や具体的な操作を通して生まれた疑問を算数の問題とし、「学びのめばえ」を示して、めあてにつながる活動を分かりやすくするように工夫されている。</p> <p>○「わくわく算数ひろば『みらいへのつばさ』『どんな計算になるのかな』『やってみよう』『さがしてみよう』」では、算数と日常生活との関わりを実感しながら学習が進められるように工夫されている。</p> <p>○巻末に、「算数資料集」を設け、児童が問題を解決するのに必要な情報と説明の仕方がまとめられており、個に応じた学びが実現できるように工夫されている。</p> <p>○巻頭の「学習の進め方」において、「みんなで話しあおう」の場面が設定されている。巻末の「算数資料集」において、考えを分かりやすく説明するための話型が整理しまとめられている。</p>	
資 料	<p>○資料は身近な内容に加え、社会や自然の事象を絵と写真で取り上げている。</p> <p>○全学年に、数学的活動に使う資料のページが設けられており、切り取り用教具にはミシン目が入っている。</p> <p>○図や表は色付けされ、書き込めるようになっている。</p> <p>○巻頭に、教科書の使い方や問題解決的な学習の取り組み方や、ノートの手書きの例、巻末に、算数でよく使う考え方や作図の仕方等が示されている。</p>	
表記・表現	<p>○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。</p> <p>○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色付けで強調されている。</p> <p>○各時間の問題は番号が付けられ、囲みで強調されている。</p> <p>○各時間の課題・めあてはマークで強調され、まとめは囲みで強調されている。</p> <p>○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で記されている。</p>	
総 括	<p>○自ら問題を見付け、見直しをもって解決へと向かう学び（自立）と、他者と考えを共有し、よりよい解決へと高め合う学び（協働）を重視した紙面になっている。</p> <p>○問題の答えを求めることだけでなく「毎日の学習のつながり」と「身の回りのことからのつながり」を考えたりつなげたりすることで、「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり」を意識した構成になっている。</p>	

書名 項目	<h1>小学算数</h1>	1 1 6 日 文
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元前には既習事項を確かめる「次の学習のために」、巻末には既習の学習内容を確認する「〇〇までに学習したこと」が設けられている。基礎的・基本的な知識及び技能は巻末の「しっかりチェック」で繰り返し練習することで習熟・定着が図れるように工夫されている。つまずきやすい内容が含まれる単元には「わかっているかな？」を設けている。「数」「量」「図形」の感覚が豊かになるように数の意味や表し方、計算の意味、量の単位と測定、図形の意味や性質などを一般化していく過程を意識した構成になっている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の理解力や応用力を高めていけるように、多様な解決の検討や数学的な表現の相互関連を意図した構成をしている。また、数学的な見方・考え方を働かせる際の手掛かりとして、「カギマーク」で具体的に示している。さらに、「Hello! Math」「つなげる算数」として、学びを生かす数学的活動が重視されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末の「学び方ガイド」では算数の学び方が解説されており、児童が話し合ったり学習を振り返ったりすることができるように工夫されている。また、学習の途中や単元末の「活用」「ハロー！算数」「なるほど算数」、巻末の「算数アドベンチャー」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」等では、発展的な学習に取り組んだり日常生活と結び付けて考えたりすることができるように工夫されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校生活に関するイラストから算数の問題を見いだしたり、お話作りをしたりする活動を取り入れ、数量や図形に進んで関わられるように工夫されている。 ○低学年では、生活科と関連させた題材を取り入れ、中・高学年では、社会科や理科や家庭科と関連のある題材を取り入れ、日常の事象や他教科等との関連を図って問題を解決できるように工夫されている。 ○問題をよりよく解決する手段として図を効果的に活用することができるように、系統的に整理して図の学習ができるように工夫されている。 ○問題解決の過程において「学び合おう」の場面があり、考えの伝え合いを促すよう設定されている。巻頭の「算数ノートをつくろう」において、「学び合い」という項目をつくり、友達の良い考えや方法を書くように促している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料は身近な内容に加え、社会や自然の事象を絵と写真で取り上げている。 ○全学年に、数学的活動に使う資料のページが設けられており、切り取り用教具にはミシン目が入っている。 ○図や表は色付けされ、書き込めるようになっている。 ○巻頭に、ノートの書き方が示され、巻末に、問題解決的な学習の進め方や算数で使いたい言葉・考え方がまとめられ、切り取って使用することができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい用語や記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。 ○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色付けで強調されている。 ○各時間の問題は番号が付けられ、囲みで強調されている。 ○各時間の課題・めあてはマークで強調され、まとめは囲みで強調されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で記されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、「①どんな問題かな」「②考えよう」「③学び合おう」「④ふり返ろう」という学習過程から児童が筋道立てて考え、算数の言葉で伝え合えるように構成されている。 ○基礎的・基本的な力の確実な定着を重視し、繰り返し考えたり確認したりするページを設け、算数が苦手な児童も使いやすい教科書を意識した構成になっている。 	

算数科 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	178	177	200	182	178	200
	2年	260	243	292	284	296	290
	3年	300	263	306	302	302	302
	4年	324	287	330	350	320	332
	5年	312	289	338	310	304	324
	6年	282	269	298	276	300	286
2 巻末資料、付録等のページ数	1年	8	10	40	9	16	11
	2年	43	34	41	55	63	69
	3年	57	31	47	56	65	67
	4年	63	36	46	79	73	76
	5年	59	40	55	61	68	80
	6年	84	76	40	84	98	92

○領域別教材数等について

内容			学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文
1	総題材数		1年	18	19	18	18	23	20
			2年	17	17	20	17	17	17
			3年	18	18	20	17	20	17
			4年	14	15	20	17	16	16
			5年	18	18	20	16	18	17
			6年	12	13	14	12	13	13
2 領域別 教材数	A	数と計算	1年	11	12	11	12	16	13
			2年	10	10	11	10	10	10
			3年	12	12	12	11	14	11
			4年	8	8	12	9	8	10
			5年	6	6	6	6	6	6
			6年	3	4	5	4	4	4
	B	図形	1年	2	2	2	2	2	2
			2年	2	2	2	2	2	2
			3年	2	2	2	2	2	2
			4年	4	4	4	4	4	4
			5年	6	6	6	5	5	5
			6年	5	5	4	4	5	5
	C	測定	1年	4	4	3	3	4	4
			2年	4	4	5	4	4	4
			3年	3	3	4	3	3	3
		変化と関係	4年	1	2	1	2	2	1
			5年	4	4	5	3	5	4
			6年	2	2	2	2	2	2
	D	データの活用	1年	1	1	2	1	1	1
			2年	1	1	2	1	1	1
			3年	1	1	2	1	1	1
			4年	1	1	3	2	2	1
			5年	2	2	3	2	2	2
			6年	2	2	3	2	2	2

○その他

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文
発展させたり、様々な場面で活用させたりするための課題の数	1年	9	10	10	28	12	14
	2年	14	17	20	26	25	17
	3年	17	43	18	29	33	27
※ 問題場面のまとまりをもって一つとカウントする	4年	19	33	20	23	28	16
	5年	22	42	29	32	25	14
	6年	23	44	21	21	25	12